

実施内容	大量出血に対するフィブリノゲン HT 静注用の使用
使用する医薬品の名称	フィブリノゲン HT 静注用 Ig
診療科	救命救急部門 ^{※1} 、脳神経外科 ^{※1} 、心臓血管外科 ^{※2}
対象者	※1 重症外傷に対する大量出血 ※2 StanfordA 型大動脈解離の緊急出血に対する大量出血
承認日	2025 年 12 月
承認期間	永続的
概要	フィブリノゲン HT 静注用の適応は「先天性低フィブリノゲン血症の出血傾向」と「産科危機的出血に伴う後天性低フィブリノゲン血症に対するフィブリノゲンの補充」となっているため、重症外傷や StanfordA 型大動脈解離の緊急出血における大量出血の患者に対しての止血促進には FFP (新鮮凍結血漿) を使用していますが、解凍に時間を要することから、フィブリノゲン製剤を保険適応外であるが使用します。
対策	後天性フィブリノゲン血症とは血中フィブリノゲン値が 150mg/dL を下回る状態であることに注意し、本剤投与直前の血中フィブリノゲン値の測定結果を確認したうえで投与の適否を判断します。また、フィブリノゲンは特定生物由来製品であり、感染症伝搬のリスクを完全に排除することは出来ないため、使用に当たっては血漿分画製剤使用に関する説明を行い同意を得たうえで投与します。また、医薬品名、製造番号、投与日、患者氏名、住所等を 20 年間保存します。
問合せ先	京都第二赤十字病院 各診療科 TEL : (075) 231-5171 (代表)